

ベトナム Block B ガス田開発 最終投資決断について



2024年4月1日
三井物産株式会社

本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。
エネルギー第一本部長の飯島と申します。

3月29日に最終投資決断の適時開示を行いました、ベトナムBlock B ガス田開発について
ご説明いたします。

Block B 権益概要

事業要旨	三井石油開発 (MOECO) 経由参画する、上流ガス田と発電所までのパイプラインの 一帯開発事業
ガス田所在地	ベトナム 南西沖330km 海上ガス田
推定可採埋蔵量	3.95TCF (原油換算: 約680百万boe)
ガス田開発事業 権益保有者	Vietnam Oil and Gas Group*1 (PVN) : 42% PetroVietnam Exploration Production (PVN子会社) : 27% MOECO子会社 (JOGMEC共同出資*2) : 23% PTTEP : 8%
パイプライン事業 権益保有者	PV Gas(PVN子会社) : 51% PVN : 29% MOECO子会社 (100%出資) : 15% PTTEP : 5%

*1 オペレーター (通称 : PetroVietnam 或いは PVN)

*2 JOGMECはガス田開発事業権益を保有するMOECO子会社2社へ夫々41.26% / 38.72%を出資



Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

2

まず初めに、ベトナムBlock B事業の権益概要に関して説明いたします。

Block Bガス田は、ベトナム南西沖 約330kmに位置する海上ガス田であり、推定可採埋蔵量は3.95TCFになります。これは仮にLNGに換算しますと、年間約4百万トンと20年間賄うに足るガス量となります。

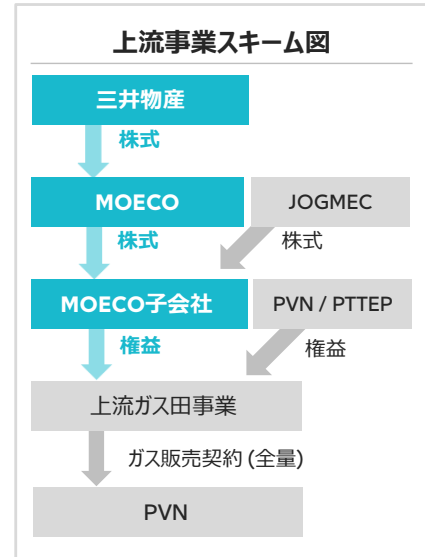
当社は100%子会社の三井石油開発を通じ、上流ガス田開発事業と陸上発電所までのガス輸送を担う中流パイプライン事業に参画しております。

権益保有者に関しましては、上流事業は国営企業であるVietnam Oil and Gas Group、通称PETROVIETNAMがオペレーターとして42%の権益を保有し、三井石油開発はJOGMEC様を合わせた本邦勢として、外資筆頭である23%の権益を保有しております。同ガス田は、三井石油開発が既に参画しておりますタイ沖ガス上流事業と地理的にも近く、同様の地質構造を有しており、これまで積み上げた同社の知見活用が可能と考えております。中流事業も同じくPETROVIETNAMがオペレーターを務め、29%の権益を保有し、三井石油開発は外資筆頭である15%の権益を保有しております。

Block B 開発計画概要



開発費用^{*1} 上流 (E&P) + 中流事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 約7.4億ドル (約1,100億円)
ガス田開発計画 上流 (E&P) 事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産開始迄に37坑、累計861坑の生産井掘削 ● ガス生産量はPlateau期間で490mmcf/d 原油換算 約84,500boe/d ● 開発費用^{*1} 5.6億ドル (約840億円) ● 生産期間 2026年末 ~ (20年超)
パイプライン 開発計画 中流事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 全長 433km (海底330km、陸上103km) ● 最大輸送能力 日量640mmcf/d 原油換算 約110,000boe/d ● 開発費用^{*1} 1.8億ドル (約270億円)
ガス販売	<ul style="list-style-type: none"> ● PVNへ全量販売 ● PVNは国内発電所への転売を予定



*1 開発費用はMOECO子会社持分の生産開始前CAPEX, 為替は150円/米ドルを使用

続いて、ベトナムBlock B事業の開発計画概要をご説明いたします。

ガス田開発を行う上流事業の開発計画では、生産開始までに37坑、事業期間累計で861坑の生産井の掘削を予定しています。

ガスの生産期間は2026年末から20年超を予定しています。プラトー期間では、日量4億9千万立方フィートのガス生産を見込んでおります。

三井石油開発が参画する上流事業及び中流事業における生産開始前の開発費用は、三井石油開発子会社持分で約7.4億ドルを見込みます。

同ガス田で生産されたガスは、上流事業の井戸元でPETROVIETNAMへ全量を販売します。その後パイプラインを通じてベトナム国内の陸上発電所群まで輸送され、ガス火力発電に使用されます。

当社は本事業を通じて、経済発展とともに電力不足が喫緊の課題となっているベトナム国内におけるエネルギーの安定供給に寄与します。

責任あるエネルギー・トランジションの追求



本事業に参画するにあたり、当社天然ガス・LNG事業取組み方針に関し改めて説明申し上げます。

コロナ後の需要回復に対して、天然ガスの供給不足が懸念される環境は継続しており、当社としても安定供給と需給調整機能へのNeedsの高まりを感じております。

一方で、低・脱炭素化への社会的Needsは不変的かつ不可逆的なものであり、「エネルギーの安定供給」と「低・脱炭素化」の両方を高い次元で追求するという、重要かつ難易度の高い課題に当社も直面しております。

エネルギー業界への社会的要求が、「エネルギー・トリレンマ」という言葉にも御座います通り、エネルギー・トランジションを進める上では、安定供給(Energy Security)、経済合理性(Affordability)、持続可能性(Sustainability)の要素を満たしながら取り組むことが重要であると強く感じております。

エネルギー・トランジションは、一朝一夕で実現されるものではなく、段階を踏んで実現されるものであり、国や地域毎に異なる状況も考えながら適切に進めていく必要があります。

その過程において、天然ガス・LNGは経済合理的に安定供給を果たしつつも、相対的な環境負荷の低さから、現実解として非常に重要な役割を果たすと当社は考えております。

当社はこれまでも天然ガス・LNGをコア事業として取り組んできましたが、改めて今後責任あるエネルギー・トランジションを進めていく上での中心的な戦略領域として、天然ガス・LNGを位置づけ取り組んでいく方針です。

当社が強みを持つ事業開発推進分野に加えて、当社物流機能を活用して強化を図っているトレーディング事業の両輪で進め、既存事業と新規事業の両方において低・脱炭素化を念頭に取り組むことで、冒頭に申し上げた「エネルギーの安定供給」と気候変動対応に向けた「低・脱炭素化」の両方を実現し、当社らしい責任あるエネルギー・トランジションを進めていきたいと考えております。

Block B 事業開発の戦略的意義



ベトナムにおける電力の安定供給を通じた豊かな暮らしに貢献



ベトナムの持続可能なエネルギーtransitionに寄与^{*1}



当社知見を活用した事業価値向上、および長期安定収益の実現

*1パリ協定に準じて、ベトナム政府は2050年までの温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指す中、第8次国家電力開発基本計画（PDP8）を策定、同計画には本事業のガス供給先である発電所群も記載あり。

続いては、先程の「エネルギーtransition」に直面する外部環境への対応も念頭に置き、具体的に本事業における戦略的意義をご説明申し上げます。

1. まず、当社はガス田の開発を通じて、経済発展が見込まれ電力不足が喫緊の課題であるベトナムにおいて、電力の安定供給の基盤をつくり、同国の豊かな暮らしに貢献します。
2. また、ベトナムは2050年迄のカーボンニュートラルの達成を掲げており、石炭依存度の低減を目指しております。「第8次国家電力開発基本計画（PDP8）」も昨年策定され、Block Bガス供給先のO Mon発電所群も記載されています。本事業を通じて、当社はベトナムの持続可能なエネルギーtransitionを支援していきます。
3. 最後に、本案件は三井石油開発が探鉱段階より参画しており、参画プレミアムを払っていない競争力のある事業です。同時に、隣接するタイ沖ガス上流事業で培った知見も活用しながら、外資筆頭の権益保有者として同ガス田の価値向上に努めることで、2026年の生産開始以降、中長期に亘る安定収益を実現していきます。

以上より、本事業を通じ当社の天然ガス・LNG取組方針で謳っている責任あるエネルギーtransitionの追求を進めていきます。

安定収益の基盤

次世代の収益基盤

マテリアリティの実現



最後に三井石油開発の事業戦略についてご説明します。

まず、タイ沖上流ガス事業を始め三井石油開発が保有する既存E&P事業に、今回の投資対象であるベトナムBlock B事業を加え、安定収益の基盤を構築します。

これらの安定収益を原資に、東南アジアを中心としてCCS・CCUSを含む次世代型E&P事業への再投資を行い、次世代の収益基盤の構築を目指します。

また、三井石油開発の持つE&Pの知見と当社総合力を高度に融合させることで、「環境と調和する社会」と「安定供給基盤」の実現に継続的に取り組みます。

引き続き三井石油開発を当社E&Pグループの中核企業として位置づけ、当社マテリアリティの実現を通じた社会的価値の創造と課題解決に努めてまいります。

360° business innovation.



私からのご説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。